

令和5年度 4歳児 「こま回し」

(実践前修正箇所を斜体、実践後修正箇所を囲み文字にて示す。)

1. 期間 10月下旬～3月

2. 設定の理由

1学期には、園庭で思い切り走ったり、固定遊具で遊んだり、大型積み木を並べたり、木登りをしたりして、様々に体を動かすことを楽しんできている。その中で、固定遊具の高いところに登りたい、木登りで上まで登りたいなど、少し難しいことに向けて、できるようになりたいと思い、繰り返し取り組む姿も見られるようになってきている。また、氷鬼などの鬼ごっこで、追いかけて追いかけられたりして友達や教師と一緒に遊ぶ楽しさを感じたり、勝ち負けがあることで、勝って嬉しい気持ちや負けて悔しい気持ちを友達と一緒に感じたりする経験をしてきている。また、運動会では、リズム表現では全身を使って友達と一緒に表現する楽しさや、物語の展開を考える面白さを感じた。

また、玉入れでは玉を入りたい、速く走りたいと具体的な目的をもち、考えたり試したりして繰り返し取り組む中で、できるようになったり、前よりも上手になったりしたことを嬉しいと思ったり、自信をもったりした。また、投げたり走ったりすることが得意な友達の個性や素敵などに気付いたり、チームが勝てるようにどうしたらいいか考えたりして、思い付いたことをしようとするような姿も見られている。

このような経験をしてきた4歳児の子ども達に、運動会のご褒美としてこまを一人二つずつ渡し、取り組んでいくこととする。手回しごまは3歳児2学期末にもらい、経験をしているが、紐ごまに触れた経験のある子どもはほとんどいない。

すぐに紐が巻けたり、こまが投げられたりするわけではないので、ひもを巻いたりこまを回したりできるようになるまでに時間や労力をかけることとなる。その中で、回せるようになりたいと思って回せるようになるまで繰り返し挑戦したり、友達や保護者に紐の巻き方やこまの投げ方を教えてもらって、保護者や友達の優しさを感じたり、コツを掴んで回したり難しい技をしたり挑戦したりする姿を素敵だと思ったり、巻き方や投げ方、足の開き方などコツをつかんだりしていく。また、最初はなかなかできなくてやっとできるようになったという過程は、できた時に大きな自信へつながるものとなる。

こま回しでは、一人一つ以上自分のこまがあり、いつでも手にとって遊べる環境にある。そのため、紐が巻けるようになりたい、こまを回したいなど具体的な目標をもっていつでも挑戦できる。しかし、こま回しは、それぞれでコツをつかむまでの時間や練習時間も違うので回せるまでに個人差が出る。

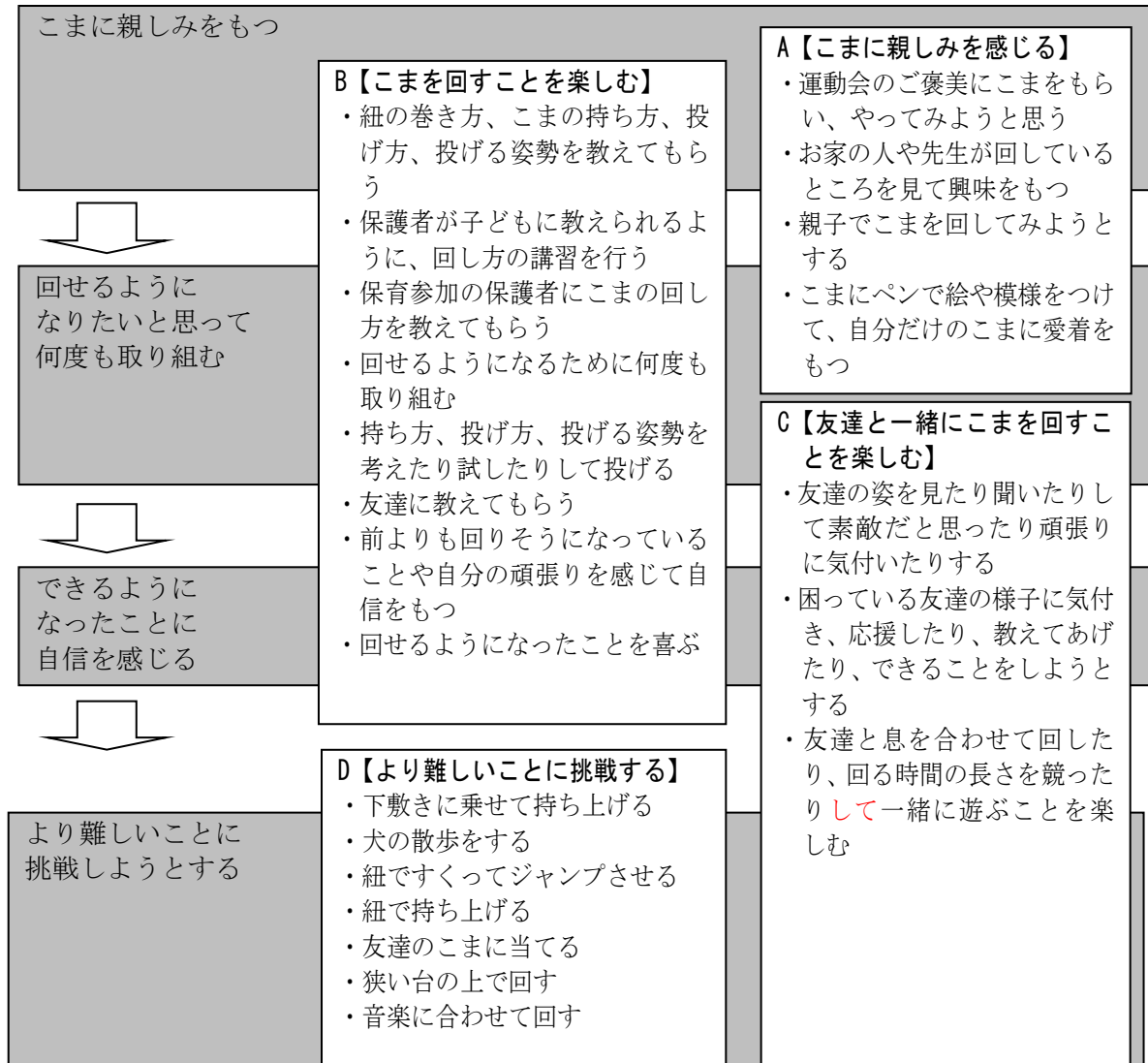
そこで、人と比べるのではなく、前の自分と比べてできるようになったということを自覚し、自信をもってほしいと考える。そして、回せたら終わりではなくて、友達や教師より長い時間回す、犬の散歩や手のせ、狭い台の上で回すなどいろいろな技に挑戦するなど一人一人の段階に合わせて目標をもち、挑戦し続けられる環境を作っていきたい。

3. わらい

- ① 紐を巻けるようになりたい、こまを回せるようになりたい、先生や友達より長く回したい、狭い台で回せるようになりたいなど具体的な目標をもって挑戦したり、繰り返ししたりしようとする。また、自分のこまと紐に愛着をもって大切にしようとする。 自ら決める・選ぶ
- ② 紐が巻けるようになった、こまが回せるようになった、昨日より多く回った、長く回った、狭い台で回せるようになったなど以前はできなかったことができるようになったことを喜んだり、自分の頑張りを感じて自信をもったりする 自分に満足する
自分を客観的に把握する
- ③ 先生や友達、お家の人に回し方を教えてもらったり、応援してもらったりして嬉しく思ったり、こまが回ったことを一緒に喜んだり、どちらが長く回せるか勝負したりこまをぶつけ合ったりして一緒に遊ぶ楽しさを感じたりする。 他者という喜びを感じる
- ④ 紐の巻き方を優しく教えてくれた、投げ方をやって見せてくれた、困って 他者のことを知る

- いることを教えてくれた**など友達の優しさを感じたり、頑張って何度も練習する友達の頑張りを感じたり、上手にこまを回したり長く回したりする友達を見て素敵だと思ったりする。
- ⑤ 紐を巻くことができなかつたり、なかなか回らなかつたりして困っている友達に気付いて、紐を巻いて見せたり、こまの持ち方や投げ方、**投げる姿勢**を教えてあげたりしようとする 他者のことを考えて行動する
- ⑥ 近くで友達がいると、こまが当たって危ないことを知って、周りを見かねたり、投げることを知らせたり、友達が離れるのを待たせたりしてから投げようとする 身を守る
- ⑦ **こまの紐を巻く時の引**力を調節しながら指先で紐を巻く、足を肩幅ぐらいに開く、ひざを曲げて低い姿勢になる、腕を後ろに引いてこまを投げる、遠くに向けて投げるなどこまを投げる時の姿勢や体の使い方、**動かす方、紐を巻いたりこまを投げたりする時の力加減など**を見たり教えてもらったり自分で考えたりして、試そうとする 身体を操作する
- ⑧ こまに好きな色や模様をつけたり、絵を描いたりすることを楽しむ。 造形に表す
- ⑨ こまは、止まる前に揺れが大きくなる、逆さ向きでも回る、紐は力を入れ過ぎると巻けないが、きつく巻くと長く回る、**こまや板など、他のものにぶつかつたり擦れたりすると止まりやすい、こまが速く回っていると長く回る**など、こまの止まり方や回り方**の特徴**、紐の巻き方**による動きの違いの特徴**を感じ、その面白さや不思議さを感じる 事物・現象をとらえる
- ⑩ こまを回すと、色や模様が変わることや速さが変わると様子が変わることを面白いと思ったり、驚いたり、不思議に思ったりして何度も試そうとする 事物・現象をとらえる
- ⑪ こまの回る様子や止まりそうな様子を見て、**回る速さの違いや回っている時間の長さの違い**、どちらが長く回るかを感じる。 数・量をとらえる
比較する
- ⑫ こま回しをしやすい場所を考えてこまの板を置**こうとするいたり、動かしたり増やしたりする。** 住空間を整える

4. 展開



A【こまに親しみを感じる】		
予想される子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
<ul style="list-style-type: none"> ・運動会のご褒美にこまをもらう ・保護者や教師が回しているところを見る ・こまにペンで絵や模様を付ける 	<p>◎自分のこまと紐に愛着をもって大切にしようとする。①</p> <p>○お家の人や先生がこまを回す様子を見て、自分も回してみたいと思う。①</p>	<p>*自分だけのこまを大切にできるように、<u>絵や模様を付けられるようなこまを一つは渡す。</u></p> <p>また、親子で一緒に取り組めるように、一人に二つこまを渡す。</p> <p>◎自分だけのこまに愛着を感じられるように、<u>子どもの作ったこまの素敵なところを褒めたり、周りの友達に知らせたりする。</u></p> <p>◎こま回しをすることに興味をもってやってみようと思えるように、<u>お家の人がかまを回しているのを見たり、家でお家の人と一緒に回したりすることができるように一人に2つ以上のこまを渡す。</u></p> <p>◎こま回しを楽しそうだと思ったり、自分も回せるようになりたいと思ったりするように、こまを回して見せたり、誘った</p>

	<p>○こまに好きな色や模様をつけたり、絵を描いたりすることを楽しむ。⑧</p> <p><u>◎自分のこまと紐に愛着をもって大切にしようとする。④</u></p>	<p>りする。</p> <p>◎色をつけたこまが回るイメージをもてるように、色をつけたこまを回して見せる。 *自分で好きな色や模様を付けられるように、ペンを用意しておく。</p> <p><u>◎自分だけのこまに愛着を感じられるように、子どもの作ったこまの素敵などを褒めたり、周りの友達に知らせたりする。</u></p>
--	---	---

B【こまを回すことを楽しむ】

予想される子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
<ul style="list-style-type: none"> ・紐の巻き方、こまの持ち方、投げ方、投げる姿勢を教えてもらう ・保育参加の保護者にこまの回し方を教えてもらう ・回せるようになるために何度も取り組む ・持ち方、投げ方、投げる姿勢を考えたり試したりして投げる ・回せるようになったことを喜ぶ 	<p>○こまを回せるようになりたいと目標をもって繰り返し回そうとする①</p> <p>○先生や友達、お家の人に回し方を教えてもらったり、応援してもらったりする嬉しさを感じる。③</p> <p>○紐の巻き方やこまを投げる時の姿勢や体の使い方、動かし方、力加減を考えたり試したりする⑦</p> <p>○以前の自分と比べてできるようになったことや自分の頑張りを感じて自信をもつ②</p> <p>○近くで友達がいると、こまが当たって危ないことを知って、周りを見つめたり、投げることを知らせたり、友達が離れるのを待たせたりしてから投げようとする⑥</p> <p>○こまの止まり方や回り方の特徴、紐の巻き方による動きの違いの特徴を感じ、その面白さや不思議さを感じる⑨</p>	<p>*こま回しに集中して取り組めるように、中央テラスにこまの板を置く。</p> <p>◎こま回しに関心を寄せて挑戦できるように、お家の人が教えに来てくれていることや挑戦している友達の姿を紹介する。</p> <p>*いつでも手にとってこまを回せるように、こまの板を保育室やテラスに用意したり、いろいろなこまを置いておいたりする。</p> <p>◎繰り返し回せるように十分な時間をとる。</p> <p>◎お家の人や友達と一緒にこまを回す楽しさを感じられるように、お家の人がいっても教えてくれることを伝えておいたり頑張っているところを応援したり、上手くいったことを一緒に喜んだりする。</p> <p>◎紐の巻き方やこまを投げる時の姿勢や体の使い方、力加減のコツを感じたり掴んででたりしてこまを回せるように、手を添えて一緒に紐を巻いたり、こまを投げたり、コツを言葉にしながら紐を巻いたりこまを回して見せたりする。</p> <p>◎以前の自分と比べられるように、前と違うところは何か尋ねたり、教師が感じた違いを言葉にしてそのきっかけを与えたりする。</p> <p>◎自分の頑張りを感じて自信がもてるように、教師が見取ったこれまでの頑張りを具体的に言葉にして褒める。</p> <p>◎こまを投げる時には、友達に当たらない場所に動いたり、投げる前に周りを見つめたりできるように、友達に当たりそうではないか尋ねたり、自ら気付かないでいれば具体的にどう危ないのかを知らせたりする。</p> <p>◎こまの止まり方や回り方、紐の巻き方に注目できるように、こまの様子を言葉にしながら注目する姿を見せたり、巻き方と回っている様子を結び付けて言葉にしたり、その面白さや不思議さに共感したりする。</p> <p>◎こまが回る速さと長さを結び付けて比べられるように、どちらが長く回りそうか、そう思うのはなぜか尋ねる。</p>

	<p>○こまを回すと、色や模様が変わることや速さが変わると様子が変わること面白かったり、驚いたり、不思議に思ったりして何度も試そうとする⑩</p> <p>○こまの回る様子や止まりそうな様子を見て、回る速さの違いや回っている時間の長さの違い、どちらが長く回るかを感じる⑪</p> <p>○こま回しをしやすい場所を考えてこまの板を置くとする⑫</p>	<p>◎回っているこまの様子に注目できるように、回っているこまをじっと見つめる姿を見せたり、色や模様の様子を面白がったり不思議がったり驚いたりする。</p> <p>◎回る速さが変わると様子が変わることを感じられるように、回り始めから止まるまでの様子と一緒に見たり、変わりがないか尋ねたりする。</p> <p>*時間の長さを感じたり比べたりするよう、ストップウォッチをいつでも取れるところに準備しておく。</p> <p>◎回る速さの違いや、回っている時間の違いを感じられるように、スピードが遅くなってきたことを言葉にして知らせたり、回っている時間の長さを一緒に数えたりする。</p> <p>*こま回しをしやすい状況を考えて整えられるように、十分な板の枚数をすぐに取り出しやすいところに置いておく。</p> <p>◎こま回しをしやすい場所を考えてこまの板を置いたり動かしたり増やしたりしていけるように、回しにくそうな状況を言葉にしたりどこに置くとこま回しがしやすいかたずねたり、置いている場所の教師が感じたこま回しをする上でのよさを言葉にしてよく考えていることを褒めたりする。</p>
--	---	--

C【友達と一緒にこまを回すことを楽しむ】		
予想される子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
<ul style="list-style-type: none"> ・友達の姿を見たり聞いたりしてすごいと思ったり頑張りに気付いたりする ・困っている友達の様子に気付き、応援したり、教えてあげたり、できることをしようとする ・友達と息を合わせて回したり、回る時間の長さを競ったり、一緒に遊ぶことを楽しむ 	<p>○頑張って何度も練習する友達の頑張りを感じたり、上手にこまを回したり長く回したりする友達を見て素敵だと思う④</p> <p>○友達が困っている様子に気付いて、やり方を教えようとする⑤</p> <p>○友達にこまの持ち方や投げ方、投げる姿勢などを教えてもらって優しさを感じる④</p> <p>○友達とどちらが長く回せるか勝負したり、こまをぶつけ合ったりして、一緒に遊ぶ嬉しさを感じる③</p>	<p>◎頑張って何度も練習する友達の頑張りがやこまを回したり長く回したりする友達のことに気付けるように、挑戦している姿をとらえて頑張りを言葉にしたり、紹介する場や見せ合う時間をとったりする。</p> <p>◎困っている友達を見て教えようと思える感じられるように、困っている友達の様子を知らせたり、教えている姿を褒めたり、教えてもらったおかげで上手いきそうなことを伝えたりする。</p> <p>◎友達の優しさを感じられるように、教えてもらった喜びに共感したり、友達の優しさと一緒に感じて言葉にしたりする。</p> <p>◎友達同士で集まってこま勝負をしようと思えるように、回っている長さに驚いたり褒めたり、教師が勝負に挑んだりする。</p>

D【より難しいことに挑戦する】		
予想される 子どもの活動	ねらい	*環境の構成 ◎教師の援助
<ul style="list-style-type: none"> ・下敷きに乗せて持ち上げる ・犬の散歩をする ・紐ですくってジャンプさせる ・紐で持ち上げる ・狙った場所で回す ・狭い台の上で回す ・音楽に合わせて回す ・発表会で保護者や友達に見てもらう 	<p>○狭い台で回したい、いろいろな技ができるようになりたいなど具体的な目標をもって挑戦したり、繰り返ししたりする①</p> <p>○友達の様子を見て、いろいろな技に挑戦する友達の頑張りを素敵だと思う④</p> <p>○より難しいことに挑戦したり、できるようになったりしたことに自信をもつ②</p>	<p>*より難しいことや面白いことに挑戦してみようと感じられるように、技の掲示をしたり、下敷きや狭い台などを用意したりする</p> <p>◎こまが回せるようになっても少し難しいことにも挑戦し続けられるように、いろいろな技をやって見せたり、友達がしている様子を写真に撮って掲示したりする。</p> <p>◎狭い台で回したり紐に乗せたりしようとする友達の様子に気付けるように、挑戦する姿を知らせたり、これまでの頑張りを言葉にしたりする。</p> <p>◎できるようになったことや挑戦したことに自信を感じられるように、頑張りを具体的に言葉にして褒めたり、友達や保護者に見てもらう機会を設けたりする。</p>